

薬 剤 科

【平成29年度総括】

薬剤科内の主な動きは、4月に薬剤師1名採用があり薬剤師7名体制になりました。化学療法対応日の増加、崇城大学実務実習生受け入れ(1名)、出前講座(1回)、薬剤師公開研修会開催(年2回開催)、山鹿市介護認定審査会参加、薬-薬連携(山鹿地区勉強会・公開薬剤師研修会開催等)、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定(6名)、日本緩和医療学会学術大会(ポスター発表)参加、日本乳癌学会学術総会(ポスター発表)参加、日本臨床腫瘍学会参加、日本癌治療学会学術集会(ポスター発表)、日本腎臓病薬物療法学会、院内クリティカルパス研究発表、がん専門薬剤師集中教育講座参加、認定実務実習指導薬剤師更新、血糖値改善セミナー講演、災害支援薬剤師育成研修会参加、院内クリティカルパス研究発表、肝炎サロン講師、院内感染対策講習会参加、がん専門薬剤師集中教育講座参加、高カロリー輸液調整開始、医薬品採用薬の検討・整理・ジェネリック医薬品変更等、多くの業務を充実し学会・研修会等も参加・発表幅広く活動を行いました。

※平成29年度薬剤科実績 (月平均)

	平成28年度	平成29年度	前年度比
IVH調製件数(件)	—	15	—
薬剤管理指導算定件数(件)	410	487	77件増
入院処方せん枚数(内服外用)	2,602	2,563	39枚減
入院処方せん枚数(注射)(枚)	4,488	4,453	28枚減
抗がん剤調製数(名)	42	70	28名増
抗がん剤調製件数(件)	74	127	53件増
薬剤鑑別報告件数(件)	237	275	38件増
DI・疑義照会件数(件)	—	68	—

【スタッフ】

薬 剤 科 長 佐藤 誠 : (泌尿器科医)

副薬剤科長 金森 浩明: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、山鹿地区薬剤師会副会長
熊本県病院薬剤師会理事 熊本県薬剤師会災害支援薬剤師

主任薬剤師 松田 光司: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師

主任薬剤師 柴田 佳代: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、
ピンクリボンアドバイザー認定

主任薬剤師 松尾 貴史: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、

日本糖尿病療養指導士

薬 剤 師 浦田 詩乃:日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、
熊本県肝疾患コーディネーター、熊本県薬剤師会災害支援薬剤師

薬 剤 師 生田 佳嵩:日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、
熊本県肝疾患コーディネーター

薬 剤 師 1名(4月採用)、薬 剤 助 手 1名(半日勤務)

【今後の課題・展望】

次年度は、後発医薬品変更検討、化学療法対応、薬剤師公開研修会開催、薬一薬連携・病一薬連携強化、山鹿市介護認定審査会参加、出前講座開催、薬学生の実務実習受け入れ、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定等、今後多くの業務、医薬品等、見直し検討していきたいと思ます。

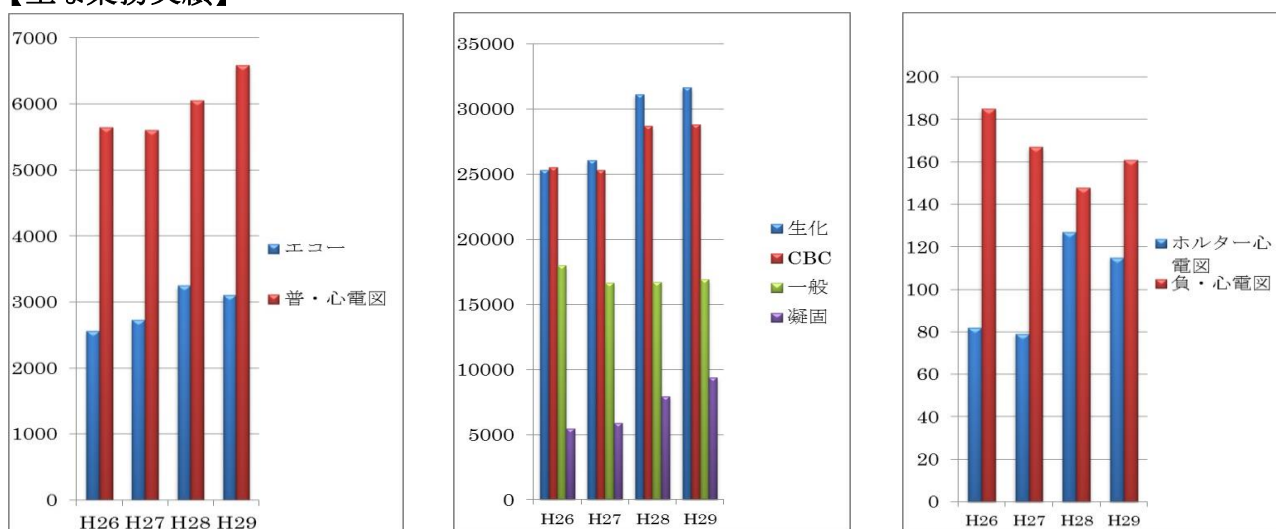
臨床検査科

【平成29年度総括】

平成 29 年度は臨床検査科長に木下医師(外科医)及び技師 1 名を採用し検査業務の充実と迅速な対応を図りました。

また、更なる技術の向上を目指して、日臨技・熊臨技が実施する精度管理調査や各研修会に積極的に参加しました。

【主な業務実績】



【スタッフ】

臨床検査科長:木下 浩一(外科医)

副臨床検査技師長:渡邊 正剛(熊本県臨床検査技師会 県北地区理事)

副臨床検査技師長:野中 裕直

主任臨床検査技師:川添 美恵子

主任臨床検査技師:坂梨 由佳(日本糖尿病療養指導士)

臨床検査技師:中小田 礼(超音波認定検査士:体表臓器、消化器、泌尿器)

臨床検査技師:伊藤 佐由美(超音波認定検査士:循環器)

臨床検査技師:緒方 かおり

臨床検査技師:城 沙知(超音波認定検査士:消化器)

臨床検査技師:原口 翔平

【今後の課題・展望】

チーム医療の一員として地域住民の生命と健康へ貢献することを目的とし、以下の項目を充実させることを課題とします。

- ① 検査技師としての役割と責任を自覚した業務への対応
- ② 各研修会への積極的な参加による知識と技術の習得および共有化
- ③ 他職種との連携

放射線科

【平成 29 年度総括】

- ① 女性診療放射線技師の採用があり、マンモグラフィー撮影時の対応が始まった。
- ② 一名採用により透視造影検査時、技師が対応できるようになった。
- ③ 一般撮影室がすべて FPD に更新された。
- ④ CTC用の炭酸ガス送気装置が導入された。
- ⑤ 3D 画像解析システム(VINCENT)が更新された。

【実績】

	一般 撮影	透視 造影	内視鏡 透視	CT検 査	MRI 検査	血管 造影	画像ファ イリング	骨 密度	ポータ ブル	オペ 室	マンモグ ラフィー	計
計	18,154	598	333	6,095	2,038	87	2,861	337	2,111	209	873	33,696

【スタッフ】

放射線科長:藏元 一崇(外科医)
 副診療放射線技師長:山崎 俊直
 主任診療放射線技師:田中 卓哉
 診療放射線技師:福永 拓也
 診療放射線技師:吉田 健一郎
 診療放射線技師:江藤 美佳
 放射線事務:多久 美由紀

【今後の課題・展望】

- ・更新時期の機器を効率よく更新する
- ・共同利用 MRI のさらなる増加をめざす
- ・VINCENTの取り扱いを熟知する

臨床工学科 (ME 室)

【平成 29 年度総括】

ME室は平成 19 年に設置され、平成 22 年度には、新病棟へ移設し、ME機器の保守・点検や医療機器の中央管理に取り組んでいる。臨床技術提供としては、CHDF、DHPに代表される急性血液浄化療法や難治性腹水症に対する腹水ろ過濃縮再静注法を行っている。また、臨床工学技士の増員で、心臓カテーテル検査や治療に加え、肝動脈化学塞栓療法(TACE)への業務を拡大し、検査、治療中の患者さまの監視や医療器材の適正使用や管理を行なっている。

さらに、手術室に臨床工学技士が1名常勤し超音波凝固装置や超音波画像診断装置、ラジオ波焼灼装置のセッティングや操作、内視鏡外科手術のスコーピスト、整形外科手術(人工膝、股関節置換術)の介助業務を行ないながら、麻酔器、電気メスなどの医療機器の保守点検業務を行ない安全使用の向上に努めている。

【スタッフ】

主任臨床工学技士:西口 博憲(臨床工学技士、呼吸療法認定士)

臨床工学技士:今村 雄太郎(臨床工学技士、第2種ME技術認定士)

【中央管理および、保守点検・操作している主な医療機器】

個人用血液浄化装置・・・東レ TR-55X

人工呼吸器・・・ザビーナ／ベラ／BENNETT 840／V60

輸液ポンプ・・・OT - 701／707／808

シリンジ、PCAポンプ・・・TE - 331S／332S／TOP-5530、TE - 361

除細動器・・・TEC-5531／5521／7631／AED

低圧持続吸引器・・・SD - 2000／2001／2002／MD-8000P

経腸栄養ポンプ・・・APPLIX

麻酔器・・・PRO-55s／KMA-1300Ⅲ／KMA-1300Vi

電気メス、超音波凝固切開装置・・・VIO3／ForceTriad／Force FX、SonoSurg／GEN11

超音波画像診断装置・・・I-lab／Aplio 300

ラジオ波焼灼装置・・・VIVARF

内視鏡手術装置・・・Electronic Endoflator／Image／Xenon300

【今後の課題・展望】

保守・点検業務として、内視鏡室に設置している電気メスや内視鏡装置の日常的な点検や、カメラの洗浄・消毒業務を行ない内視鏡で使用する医療機器の安全使用の向上に努めていきたい。

リハビリテーション科

【平成 29 年度総括】

患者さまの早期の家庭復帰・社会復帰を目指して術後早期・発症後早期からリハビリを開始し、地域の病院とも連携して参りました。また今年度は、がんリハに対応できるスタッフを増員すべく指定の研修に参加し、計 4 名で対応できるようになりました。がん拠点病院としてリハビリの充実もはかっています。

実績に関しては下記に示すとおりです。

		平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比(%)
入院	疾患別	18,399 人	17,978 人	+2.3
		40,775 単位	40,753 単位	+0.1
	手技	3,678 人	3,909 人	-5.7
	器具	85 人	19 人	+347.3
外来	疾患別	0 人	0 人	
		0 単位	0 単位	
	手技	7 人	125 人	-94.4
	器具	0 人	0 人	

(包括病棟を含む)

【スタッフ】

リハビリテーション科長:工藤 智志(整形外科医)

リハビリテーション科医長:横田 秀峰(整形外科医)

理学療法士長:四方田 清晴

副理学療法士長:上野 高弘

理学療法士:増岡 正治

渡邊 龍一

福島 崇晃

副作業療法士長:牛島 由紀雄

主任作業療法士:脇山 美紀

作業療法士:松林 佑

平尾 隆昌

助 手:原口 美子

【今後の課題・展望】

- ① 専門的技術・知識の向上を図るべく研修会や学会へ参加し研鑽に努めます
- ② 他職種・地域との連携をとり患者さまの早期の回復を図って参ります
- ③ 出前講座・実習生の受け入れを継続していきます

栄養管理室

【平成 29 年度総括】

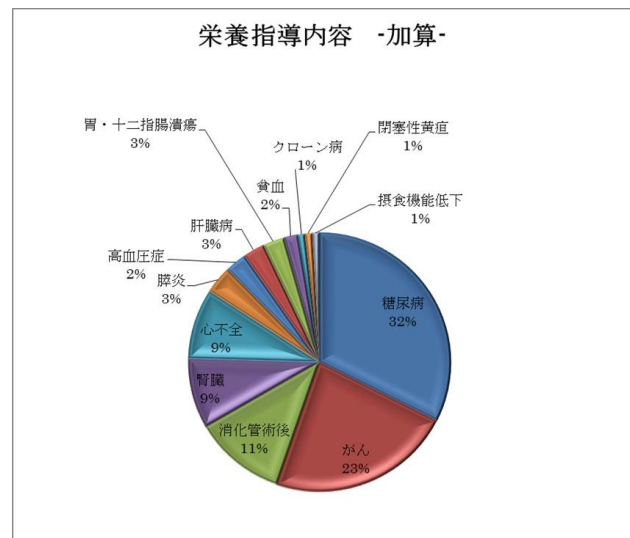
安全に食事提供できるよう委託スタッフとの会議を重ね、献立の見直しや調理作業の標準化に努めました。患者食事負担額が増額している中、満足度を向上させるべく予算内での食品選択に配慮し献立修正に取り組みました。また随時インシデント事例についても問題点や対策の検討を行い再発防止に努めました。

NSTにおいては、SGAスクリーニングをもとに毎週カンファレンスを開催、対象者の栄養状態の把握と早期の栄養介入に努めました。

【栄養指導延べ件数】

年間栄養指導件数 189 件
(うち加算 120 件)

	件数
入院個別	152
外来個別	14
集団	23



【食事提供数】

年間提供食数 145,143 食
(うち特別メニュー 595 食)

	食数	%
特別加算食	56,931	39.2
一般食	88,212	60.8

【NST延べ件数】

カンファレンス 34 回開催

	件数
低栄養リスク判定	105
栄養介入	161

【スタッフ】

栄養管理室長: 児島 協 (代謝内科医)

管理栄養士: 2 名

調理業務: 九州フードサプライセンターへ委託

【今後の課題・展望】

平成 30 年度より、食事患者負担額も更に増額となります。これまでと同等予算で食事の質を維持し、満足度向上を目指していくことが課題となります。また、管理栄養士増員に伴い、病棟担当制も可能となるかと思われますので、より一層患者さまや病棟との信頼関係確立に努めたいと思います。また、栄養指導介入の増加、チーム活動での加算取得に貢献して参りたいと思っています。

医療安全管理室

【平成 29 年度総括】

医療安全管理室はヒヤリハット・事故報告書の管理・運用、職員研修の企画・運営、安全情報の提供、医療事故防止マニュアルの周知徹底などが主な業務であり、各種委員会、医薬品・医療機器安全管理者等と連携して医療安全管理や推進活動を行ってきました。

平成 29 年度は特に、単回使用医療機器の取り扱いについての検討、肺血栓塞栓症予防への取り組み、医療事故防止マニュアルの改訂などを実施しました。

【スタッフ】

医療安全管理室長:別府 透 (副院長兼職)
 医薬品安全管理者:金森 浩明 (副薬剤科長)
 医療機器安全管理者:西口 博憲 (主任臨床工学技士)
 専従医療安全管理者:宮本 裕子 (看護師長)

【年度別ヒヤリハット・事故報告の件数】 (事故はレベル3a 以上)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
ヒヤリハット	480 件	580 件	581 件
事故	53 件	51 件	61 件
総数	533 件	631 件	642 件

【平成 29 年度ヒヤリハット・事故報告の種類別件数】

種類	件数	種類	件数
薬剤	228 件	医療機器	8 件
転倒・転落	170 件	輸血	8 件
処置・検査	58 件	食事	29 件
チューブ類	49 件	患者対応	14 件
手術	22 件	その他	56 件

【今後の課題・展望】

- ①医療事故を防止し、医療の質の向上
- ②医療事故防止マニュアルの改訂
- ③医療安全対策に関する他の医療機関との連携
- ④ヒヤリハット・事故報告の推進

医療安全管理室への迅速な事例報告は、医療に関する様々な問題を院内全体で取り組む事につながります。様々な事例の報告、相談に適切に対処できる専門的な知識、技能を備え、院内職員が安心して自信を持って働ける環境整備を行っていききたいと思います。

感 染 制 御 室

【平成 29 年度総括】

病院内における感染管理と感染対策のための主要な目的は、①患者さまを守ること、②医療環境で医療従事者と病院利用者(訪問者)、その他の人を守ること、③可能なときにはいつでも、可能な限り費用対効果の高い方法で、①と②の目的を達成することです。現代において、新興・再興感染症や多剤耐性菌が社会的にも問題となっています。様々な状態にある患者さまをはじめとする大勢の方が利用する病院内においては、感染の拡大が起らないよう対策・管理を行わなければなりません。そのため、病院長直下の諮問機関として院内感染対策委員会を組織し、その実動部隊として感染制御チームが感染対策の活動を行っています。

平成 29 年度より熊本県感染管理ネットワーク微生物サーベイランスと厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業の細菌検査部門・手術部位感染 (SSI) 部門に参加し、日常の感染症発生状況の把握し、アウトブレイクの早期発見に努めています。

1. 感染管理システム

- ①院内感染対策委員会開催(12回/年開催)
- ②感染制御チームラウンド(病棟環境ラウンド:毎週実施)
- ③抗菌薬適正使用ラウンド(毎週実施)

1. サーベイランス

(1) 院内感染症情報収集・分析・対策

	平成 28 年度			平成 29 年度		
	合計	新規	発生密度率	合計	新規	発生密度率
MRSA	76	21	0.37	90	32	0.58
ESBL 産生菌	45	22	0.39	68	29	0.52
<i>C.difficile</i> toxin	16	10	0.18	11	6	0.11
<i>M.tuberculosis</i>	1	0	0	2	1	0.02
BLNAR	6	0	0	2	1	0.02

2. 感染管理教育

① 院内研修

日時	対象	内容	参加数	講師
4月3日	新入職者	医療関連感染 標準予防策 職業感染対策 感染性廃棄物	14	ICN
6月27日 6月29日	全職員	ノロウイルスと楽しい(?)感染対策 医療従事者のためのワクチン接種	291	ICD ICN
7月18日	看護補助者	病院環境清掃	17	ICN
10月11日	希望者	手術室における「感染対策」最新情報フォーラム	29	浜松医療センター

		Live streaming		矢野邦夫先生
12月4日 12月5日	全職員	食中毒と感染性胃腸炎について 吐物処理の実技演習	115	ICD ICN

② 外部研修

日時	対象	内容	講師
9月15日	鹿本圏域看護職員継続研修	標準予防策	ICN
9月19日	山鹿温泉リハビリテーション病院 院内感染対策委員会	病棟ラウンドの方法について 医療廃棄物の分別について	ICN
10月10日	鹿本圏域看護職員継続研修	院内ラウンド	ICN
11月16日	大道保育園職員研修	保育園での感染予防(嘔吐・下痢・インフルエンザ)	ICN

③ ICT NEWS 発行

Vol.	内容	発行日
24	院内感染対策研修会開催報告	平成29年4月7日
25	持続皮下注射・輸液時のカテーテルとチューブの交換頻度について	4月14日
26	県内での麻疹患者発生について	5月2日
27	感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算について	7月21日
28	動物由来感染症について	7月26日
29	海外での感染症について	7月28日
30	流行性角結膜炎(EKC)について	8月8日
31	8月30日(針刺しゼロ)について	8月30日
32	インスリンバイアル製剤開封後使用期限について	9月4日
33	SSIサーベイランスについて	11月22日
34	DOTSについて	平成30年3月28日

1. 院内感染対策マニュアル・抗菌薬適正使用マニュアル改訂

院内感染対策マニュアル 2017年版・抗菌薬適正使用マニュアル 2016年版を院内共有フォルダに掲載

季節性インフルエンザ流行時期の面会制限開始・解除基準を作成

2. 職業感染対策

①流行性ウイルス疾患抗体ワクチン接種者数:161名(接種割合 82%)

②インフルエンザワクチン接種:315名(接種割合 91.6%)

③針刺し・切創/血液・体液曝露事象発生報告件数:7件(前年度9件)

3. 地域連携

感染防止対策地域連携カンファレンス開催(7回/年)

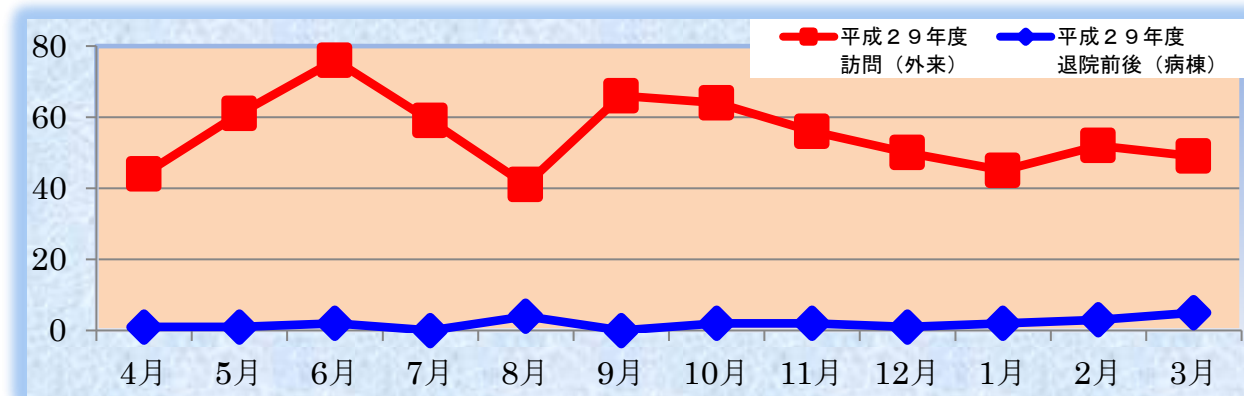
感染防止対策地域連携に係る相互チェック実施(訪問10月5日・受診11月6日)

【今後の課題・展望】

- ・平成 30 年 1 月より厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業の手術部位感染 (SSI) 部門に参加している。
日常の手術部位感染の発生状況を把握し、アウトブレイクの早期発見に努める。また、手術部位感染予防に関するケアプロセスへの介入を行い、手術部位感染の減少に努め、それによる医療・ケアの質の改善を図る。
- ・抗菌薬適正使用プログラムを実施し、抗菌薬使用の適正化に努める。
- ・職員の流行性ウイルス疾患感受性職員・B 型肝炎ウイルス抗体未獲得職員へのワクチン接種実施し、院内感染拡大の防止と職業感染曝露防止に努める。

訪問看護室「菜の花」

【平成 29 年度訪問件数】



総件数:延べ 686 件

【平成 29 年度総括】

28年度末に訪問看護室の礎を築いた管理者の定年退職とスタッフ2名の退職があり、常に厳しい業務環境での新たなスタートとなりました。

看護の質を保証し、在宅医療サービスを安全に提供するために、新規受け入れを緩和ケア対象の方や退院前・後訪問指導を中心に訪問看護を行いました。また、救急外来や外来師長と連携し情報共有することで24時間対応を行う事が出来ました。

訪問実績は昨年と比較し-606件(53.0%)の利用にとどまり、件数減少はありましたが、その中でも、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟や退院調整部門との協力と連携で、昨年度と同様に私たちの看護理念(無理をしない、無理をさせない)に沿った在宅看護ができました。

【スタッフ】

訪問看護室長:坂田 典文(緩和ケア内科医)

訪問看護室管理者:佐藤 明美(副看護師長)

訪問看護師:山下 啓子(非常勤職員)

浦部 幸(5F病棟兼務)

早田 富士子(連携室兼務)平成30年2月より

【今後の課題・展望】

・人材育成

学習会や退院支援カンファレンスを通し、若いスタッフにも在宅医療に興味を持ってもらえるような働きかけを行い、新人スタッフにも無理をせず仕事を続けられる職場環境作りと支援を行って行きたいと考えている。また、退院前・後訪問指導や特別訪問看護指示書による訪問看護の件数を増やすことで、在宅復帰率の向上や在院日数短縮、病床稼働率などへの関わりにより経営参画に繋がりたい。

地域健診室

【平成 29 年度総括】

平成 29 年度の健康診断及び人間ドックの総数は 3,707 件で、熊本地震の影響で健診業務を休止した昨年度から 140 件増加していました。健診内容別にみると、全国健康保険協会(協会けんぽ)生活習慣病予防健診は 1,522 件(昨年比+106 件)、乳がん検診は 496 件(昨年比+26 件)実施しました。健診を受ける事業所数は増加しており、新規の利用も増えています。また、乳がん検診の受検者及び問い合わせは増加傾向であり、早期発見の関心は高まっていると思われます。

健診の種類は、協会けんぽ生活習慣病予防健診、山鹿市・和水町国保人間ドック、市町村共済人間ドック、一般人間ドック、法定健診、特定健診、山鹿市特定二次検査、後期高齢者健診、被爆者・被爆者二世健診、乳がん検診(山鹿市・和水町)、山鹿市肝炎ウイルス検査及び大腸がん検診、山鹿市役所・消防本部職員健診、病院職員健診等です。また、産婦人科外来が委託を受けている山鹿市子宮頸がん検診の予約について、乳がん検診と同日に受診したいとの要望を受け、昨年度から健診室が予約の対応を行っております。

今年度より「胃がんリスク検査」(ABC 検診) をオプション検査に新設しました。ピロリ菌感染の有無と胃粘膜の萎縮度を調べる血液検査を組み合わせ、胃がんのリスクを 5 種類の判定で評価します。健診項目に内視鏡検査が含まれていない方や内視鏡検査に抵抗がある方には、判定に応じて画像精密検査を行う目安にもなり、141 件実施しました。さらに、病院職員が定期健診でがん検診等の内容を受けることができるように、オプション検査の体制を整備したところ、100 件以上の申込みがありました。職域健診におけるオプション検査の実施は、職員が自身の健康に目を向ける機会となり、疾患の早期発見・治療への一助になると思っております。

健診の対応は、診察・結果説明を豊永院長が行い、心電図の読影・被爆者健診は永野室長が担当しました。内視鏡検査は豊永院長を中心に本原先生、柚留木先生に、胸写の読影・SAS の判定は坂田和子先生に、負荷心電図の判定は大庭先生に、眼底検査等の判定は榮木先生に、山鹿市特定二次検査は児島先生に、ご協力をいただきました。

保健師による特定保健指導は、健康に対する意識が高い健診当日に初回面談を実施し、生活習慣改善のための行動変容を動機づけ、半年間の健康支援を電話・手紙・面談等で行っています。今年度は 127 名の対象者を支援し、経年的に関わることで、様々な方面からメタボリックシンドロームの改善にアプローチしました。熊本県肝疾患コーディネーターの活動は、肝炎サロン(主催:熊本県)の参加やウイルス検査の受検勧奨に取り組み、肝炎ウイルス治療後やキャリアの方に定期検査の重要性を説明し、消化器内科への定期受診へ繋げています。さらに、保健師 1 名はピンクリボンアドバイザーを取得し、乳がん検診の受検啓発や電話相談等にも対応しています。

【スタッフ】

病院事業管理者:豊永 政和

地域健診室長:永野 久俊(診療部内科長兼務)

保 健 師:鹿子木 光葉
原 沙織
事 務:平野 明子(非常勤)
田川 友紀(委託)

【今後の課題・展望】

平成 30 年度は病院職員健診と同様に、山鹿市職員健診にもオプション検査を導入する予定としております。職域健診におけるがん検診の推奨を図り、健診・検診の機会を“良いきっかけ”とさせていただけるように、今後も受検者のニーズにあったサービスの更なる向上に努めたいと思っております。